

こんにちは、室屋修一です。

今回のテーマは、 ちょっと誤解されがちな 「セーフティな選択」についてです。

ゴルフってどうしても、 "攻めてこそ"みたいなイメージ が強くないですか?

実際にレッスンをしていても、 「それじゃダサいですよね?」と 相談されることがたまにあります。

でも僕は声を大にして言いたい。 「セーフティ=ダサい」は完全なる誤解です。

## 1. 攻める勇気より、逃げる技術

「攻めるゴルフ」 は確かにかっこよく見えます。

ピンをデッドに狙ったショット、ドライバー で果敢に攻めるティーショット。

でも、それがうまくいく確率って、どれくらいでしょうか?

PGAツアープロでさえ、林からパーを取れる 確率はわずか20%。

私たちアマチュアが "攻めのナイスショット" でスコアを守れる確率なんて、 もっと低いと考えた方が自然です。 2. 「守り」の中にも意図とデータを

セーフティな選択って、 なんとなく地味な感じがしますよね。 でも、たとえば

- 左OB・右はラフ→右ラフ狙いでドライバ
- 前方に池→池手前にアイアンで刻む
- ・パー5の2打目→あえて得意な距離を残す

こういった"地味に見えるプレー"の裏には、 明確な「損失回避」の意図があります。

スコアを守れる人は、 セーフティの精度が高い人です。 3. 「安全そうに見える」選択が実は危ない

ありがちな例が、 「ドライバー怖いからスプーンで行く」 というやつ。 これ、実は要注意。

なぜなら、スプーンが そこまで"曲がらないクラブ" とは限らないから。

むしろ中途半端に飛ばなくて、次のショット が無理な距離になり、

逆にスコアが悪くなることも多い。

セーフティを選ぶときは、

「何から逃げるためか?」

「どこまで許容するか?」

を、しっかり自分で言語化しておくことが大 事です。

## 4. コースマネジメント="確率の勝負"

ナイスショットを前提に 組み立てるのではなく、 \*\*"ミスしても致命傷にならない組み立て"\*\* こそが戦略的ゴルフ。

この講座で伝えたかったのは、

- ・地味でも、ミスを帳消しにできる布石の置き方
- ・「最悪ここまでいければOK」 という逆算の感覚
- ・そして、それを実行できる"逃げのメンタル"

です。

5. まとめ:派手な1打より、穏やかな18ホールを

攻めて大成功した1ホールより、 安全にボギーでまとめた3ホール の方がスコアは縮まります。

大事なのは「格好良く見えるか」じゃない。

どれだけ"無傷"で終えられるかです。

次のラウンドでは、 ぜひ"逃げる勇気"を一つ 持って出かけてみてください。